

第285回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 吉田南小学校 校長 村上 護  
参加者数 10名 教頭 江角 貴行

<b>1、代表世話人挨拶 山崎純</b>
コロナのクラスターで1、2月を休んでおりましたが、久しぶりに
きょう開催できることを喜んでおります。桜の花も満開ですが
今日の強風と雨で散ってしまわないかと心配しております。
我々が高校生の時代は学校が始まってから桜が咲いてましたが
時代の流れというのでしょうか、今年はお彼岸の頃から咲き始めて
います。季節が移ろいで行くことには変わりはありませんけどね。
今春休みで子供さんはいませんが、新学期が始まって来られた
時にトイレがきれいになったねと言ってもらえるように綺麗にしましょう
<b>2、体験感想発表</b>
<b>・松崎 純次さん(益田市・キヌヤ)</b>
昨日までは覚えておりましたが、今朝は忘れてしまってテレビを
見ているはっと思いついて着替えてきました。今日は教頭先生と
一緒に男子トイレでした、トイレを見て薬勝と思いきやこびりついて
いて苦戦しました。結果、中途半端に終わったような感じです。
あとは教頭先生又続きをお願いしますね
<b>・田村 勝則さん(益田市・日の丸)</b>
今日は久しぶりに参加しました。多分半年以上参加してなかったと
思います。たいして掃除もできませんでしたがありがとうございます
<b>・山崎 純さん(益田市・キヌヤ)</b>
先日、日の丸さんに行った際に、田村さんにたまには来てくださいと
お話をさせて頂いて、今日ご参加されて喜んでおります
こちらの小学校も便器はそんなに汚れてはいないと思いましたが
少し暗く見えづらいこともあり綺麗になったかは判断しかねます
でも、教頭先生と色々なお話が出来て良かったと思います
今日のことを又子供さんにもお話して頂ければ喜びます

<b>2、体験感想発表</b>
<b>・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)</b>
今日は女子トイレでした。はじめは3人でスタートしましたが、途中でお二人が
順次早退で帰られましたので、後半一人で頑張りましたが大変でした
<b>・森 直雄さん(益田市・キューサイファーム島根)</b>
今日は男子トイレでした。便座をばらして徹底的にやることができました
先日、岡崎さんから「トイレ掃除の奇跡」という本を頂きましたが、2002年に
全国の犯罪の発生率が下がっているとありました。広島のことを基に警察の方の
考え方が変わって全国に広がったと有り、そのことが日本中に影響を与えて
いると思います。だから掃除の仲間をもっと増やしていかなければと思います
<b>・岡本 昇太さん(浜田市・キヌヤ)</b>
今日は男子トイレの小便器を担当しました。尿石は取れましたが、奥の方に
塊が有って苦労しました。完全にきれいにはならなかったように思います
<b>・江角 貴行さん(吉田南小学校教頭)</b>
皆さん、今日はありがとうございました。初めての参加でどのように掃除をするのか
戸惑っておりましたが、皆さんに丁寧に教えて頂きました。
普段ふたを取って尿石を掃除をすることもありませんので、最初は臭くて
汚くて大変でしたが、皆さんの掃除をされる姿を見て、やっているうちに
無心になってやっていました。自分の担当した便器をどの子が使うのか
それだけ便器に対して愛着がわいてきました、新しい視点で全ての物を
見れた日になったと思います
<b>・事務局 岡崎より</b>
コロナのお蔭で休まなくてはならない月度もありますが、そのような中、日曜日に
学校をお借りしてトイレ掃除が出来ますことを本当にありがたく感じております
快くお引き受け下さる各学校の校長先生また教頭先生に感謝申し上げます
今後引き続きよろしく願います

<b>4、麓山秀三郎相談役 一日一語より抜粋</b>
<b>甘え</b>
「私はすごく協調性があります」と臆面もなくいう人がおります。一瞬、わが耳を疑いたくなるような
発言ですが、よく考えてみると、単なる他人依存の発言でしかありません。
人によりかかることを、自分で勝手に協調性があると、受け取っているにすぎません。
このことこそ「甘え」と言うべきでしょう。
<b>商売人の使命</b>
メーカーさんが辟易するような値段で販売しない。新聞の折り込みチラシ等をりようし、
派手に、何割引きなどと銘打つような売り込みはしない。商売に対する私の基本的な考え方です
その商品が持っている価値、命を無視してまで商売すべきではありません。
その商品の価値、命を最大限に引き出すのが、商売人の使命だと確信しているからです。
<b>5、森信三先生の教え 一語千鈞より</b>
<b>生き方の基本</b>
・道徳教育の評価は、厳密な意味において不可能である。しかししつければテストを待つまでもなく
日々眼前に明白である。従って道徳教育は、まずしつけから入らねばならぬ。
・「総じて資質に恵まれた者は、事故の二割五分前後を、他のために割くべき義務がある」
これはこの地上に真の平和をもたらすための真の「黄金律」といってよいであろう。
・教育の道に携わる者としては、一人ひとりの子に対する愛情とともに、そこには更に民族
そのものへの深大なる愛が無ければならぬ
・我が身に降りかかることはすべてこれ「天意」……そしてその天意が何であるか、すぐには
分からぬにしても、噛みしめていれば次第に分かってくるものです
<b>6・平澤 興先生語録より</b>
<b>平澤 興 一日一言より</b>
あそこにも人がいる。ここにも人がいる。何も珍しくないようではありますが、それは粗末な見方であります。
深く考えれば、そこにいかれたくさんの人間がおろうとも、一人ひとりが宇宙全体の中で、これほどよく出来た
不思議な存在はないのであります。普通の人は、数の少ないもの、珍しいものを、ただ不思議だと、有難いというので
ありますが、それは見方が粗末だからであります。いかに数が多くとも、尊いものは尊いのであり、不思議なものは不思議なのであります